

大日本史

二十

後朱雀天皇
 第四十一卷
 本紀

後一條天皇
 第四十卷
 本紀

史傳載紀

一五〇冊	一七五函	二八九號	和書門類
------	------	------	------

三六九函	一五〇冊	二八九號	內閣文庫
八架	冊	號	番號 和 28399
			冊數 150(20)
			函號 269 24



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



大日本史卷之四十

淺草文庫

本紀第四十

權中納言從三位源光

圀修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後一條天皇

後一條天皇諱敦成一條帝第二子也

日本略

百鍊鈔一代母上東門院寬弘五年九月十

要記大鏡木一日戊辰生于外祖左大臣藤原道長上東

門第十月為親王日本紀略法成寺七年十

月著袴日本紀略八年六月三條帝踐祚立

為皇太子日本紀略百長和三年十一月始

讀書日本紀略五年正月二十九日甲戌皇

太子受禪於上東門第日本紀略歷代皇紀

立三條帝皇子敦明親王為皇太子日本紀略

記以左大臣藤原道長攝政日本紀略小右

右大臣藤原顯光內大臣藤原公季權大納

言兼左近衛大將藤原賴通大納言兼右近

衛大將藤原實資並如故公卿補任二月七日壬

午天皇即位於大極殿時年九歲日本紀略

皇代十三日戊子尊三條帝曰太上天皇日本

紀略小十七日壬辰試瀧口射於左近衛府

小右十九日甲午卜定媁子女王為齋宮日本

紀略小二十六日辛丑以右大臣藤原顯光

為藏人所別當左大辨源道方為修理職別

當左中辨藤原經通為木工寮別當領造宮

事小右三月八日壬子發大奉幣使日本紀略

日本紀略

記十六日庚申、以右大臣藤原顯光為皇太

子傅公卿補任二十日甲子、令外衛舍人帶弓箭、

警行陣中、二十三日丁卯、試帶刀騎射於右

近馬場小右記癸酉晦、地震日本略夏四月七日

庚辰、始造宮日本略二十七日庚子、遣使

宇佐告即位日本略五月甲辰朔、上皇幸比叡

山、八日辛亥、還宮、壬申晦、以諸國旱、奉幣丹

生貴布禰日本略六月壬申、徙自上

東門第、御一條院日本略八日庚辰、令

祭主大中臣輔親、小右記九日辛巳、修請雨

經法於神泉苑、是日大雨日本略小右記、

者補秋七月、停相撲節日本略二十日壬戌、京

師火日本略九月、不豫、十六日丁巳、使僧

修法、疾瘳日本略二十三日甲子、枇杷第火、上

皇徒御攝政道長高倉第日本略二十八

日己巳、盜入穀倉院、冬十月三日甲戌、論諸

衛官人闕直者、停釐務、二十日辛卯、上皇徙

御三條院日本略二十三日甲午、御禊日本略代

要記、皇代記、十一月七日丁未、○按紀略是

帝王編年記、今據本書前攝政道長罷左大臣、日本紀略

十五日乙卯、大嘗、日本紀略、一代要記、二十

三日癸亥、牛鹿入禁中、十二月二十九日己

亥、播磨獻白雉、日本紀略

寬仁元年丁巳、春正月、復踏歌節、行射禮、日本

紀略、年行事、二十二日壬戌、盜入禁中、捕下獄、日本

略、三月庚子朔、大安寺火、日本紀略、百鍊鈔

要記、係二、四月癸卯、以右大臣藤原顯光為

左大臣、內大臣藤原公季為右大臣、權大納

言藤原賴通為內大臣、日本紀略、八日丁未

謁石清水宮、日本紀略、西宮記、奉封百戶、日本

略、十六日乙卯、攝政道長罷、以內大臣藤原

賴通攝政、日本紀略、公卿補任、一代要記、二

十二日辛酉、攝政賴通罷、左近衛大將、班左

右大臣上、夏四月三日辛未、權中納言藤原

教通兼左近衛大將、日本紀略、公卿補任、二十三日辛

卯、改元、日本紀略、百鍊鈔、丁酉晦、上皇薙髮

日本紀略、五月九日丙午、法皇崩、日本紀略、

大鏡裏書、五月九日大鏡、日本紀略、

崩、日本紀略、五日壬申、葬東北院太皇太后、

崩、日本紀略、五日壬申、葬東北院太皇太后、

號、日本紀略、十四日辛巳、轉讀仁王經、禳天

下疾疫、日本紀略、二十二日己丑、震興福寺塔、東

金堂災、日本紀略、二十三日庚寅、使千僧慶

讚壽命經於大極殿、禱疾疫、日本紀略、秋七月丁

酉朔、卜霖于軒廊、日本紀略、鴨河溢、漂流悲

田院病者三百餘人、盜入齋院、左經記、五日辛

丑、祈晴丹生貴布禰、日本紀略、八月、山城攝

津近江丹波蝗、日本紀略、三日戊辰、官符

諸國讀仁王經、最勝王經、禳之、左經記、七日壬

申、奉幣二十一社、左小經記、九日甲戌、皇太子

辭位、聽之、立皇弟敦良親王為皇太弟、日本紀略、

小右記、以右大臣藤原公季為傳、公卿補任、十八

日癸未、地震、二十五日庚寅、以前皇太子準

太上天皇、稱小一條院、日本紀略、冬十月二日丁

卯發大神寶使

日本紀略、右記、左經、小記

十二日丁丑有

牛入東宮十五日庚辰有鹿上後涼殿

小右記

十六日辛巳占之

日本紀略

二十日乙酉有狐上

御座占之二十六日辛卯鹿又入宮

小右記

一月九日癸卯奉伊勢朝明郡於大神宮

小右記

經記、左記十五日己酉命石清水己下八社神官

禳火災

左經記

二十五日己未天皇與皇太后

同輿行幸賀茂社加奉郡邑

日本紀略、小右記

授神

官爵

小右記○玉藥嘉禎元年十二月四日戊

辰以前攝政道長為太政大臣

日本紀略、公卿補任、小右記

經記、左記五日己巳觀陸奧交易馬

左經記十二日

丙子發八十島祭使

小右記、左經記

十三日丁丑近

江國分二寺災二十二日丙戌詔曰節儉者

上德富國之表儀也損益者前賢安民之治

要也寔是皇道之彛訓寧非史冊之明文故

南面雖尊唐葛之衣膚冷中心是鈞漢蒲之

膳味疎况淳風隔時澆波臨世四海已謝有

截之日百姓豈望以贍之秋在彼重華之大

聖當此季葉而少功朕以弱齡謬繼丕緒帝
 跡廣而勞化俗之道政績紛而迷利世之方
 施何德化期其康寧只考恒典於列代欲均
 節用於普天其朕服御常膳等物宜準累朝
 之例以減四分之一庶幾省毫毛於鳳扆之
 下導黎元於鴻休之間小右甲午晦雷左經
 二年戊午春正月三日丁酉天皇加元服于
 紫宸殿日本紀略百鍊鈔恩賜有差左經
 略七日辛丑尊皇太后曰太皇太后日本紀略二

月九日癸酉太政大臣道長罷左經公夏
 四月二十八日辛卯宮成徙御日本紀略
百鍊鈔以尚侍藤原威子為女御日本紀略
記閏月十二日甲辰圓教寺火日本紀略
 二十三日乙卯大風雨雹日本紀略有狼死綾綺
 殿牀下日本紀略是月神鏡鳴並占之五
 月十九日庚辰雩于神祇官三日小右二十
 四日乙酉祈雨丹生貴布禰日本紀略讀經
 延曆寺七大寺及龍穴小右辛卯晦又祈丹

生貴布禰

日本紀略

六月三日甲午卜旱軒

廊

日本紀略

今百僧讀仁王經於大極殿五日

紀略

左經小右記

四日乙未修請雨經法於神泉苑

九日

日本紀略

修五龍祭日本紀略

免左右獄輕囚

小右記八日己亥使延曆興福

二寺僧五百讀仁王經三日

小右記三日略十日

四日乙巳奉幣伊勢以下諸社

日本紀略諸社日本紀略

左經十九日庚戌彗星見西北

小右記○左經

記云自二十七日戊午修百座仁王會於

大極殿禳亢旱天變庚申晦暴雨震宣陽門

職曹司大藏省大膳職小右記宣陽門職秋

七月霖雨十九日己卯祈晴丹生貴布禰亢

月二十五日甲申地震日本紀略冬十月辛酉

乙巳尊三條中宮曰皇太后喜女御藤原威

子為皇后小右記二十二日辛亥天皇與太皇

太后皇太后皇后皇太弟幸前太政大臣道

長上東門第二十月己巳試擬文章生詩

及第者十四人日本紀略十一月十日戊

佛寺

日本紀略

廷議命北陸山陰山陽南海四道

警備

小右記

二十一日戊申奉幣伊勢以下十

社

日本紀略

二十五日壬子太宰府言乃伊賊寇

筑前那珂郡肥前松浦郡遣前少監大藏種

材藤原明範等擊卻之

朝野羣載○按本書所載太宰府解即四

月十六日之文今以上言係此日據日本紀略小右記

二十七日甲寅

重命太宰府防禦賊虜

日本紀略

五月十三

日戊辰中務省監物局火

小右記

二十四日庚

辰祈雨丹生貴布禰二十六日壬午修仁王

會於大極殿

日本紀略

是日雨

日本紀略

六月四

日己丑星月晝見

小右記

十九日甲辰丹波百

姓相帥守陽明門訴國守不法二十日乙巳

丹波守藤原賴任差吏卒捕之

日本紀略

命

檢非違使逮其為首者十餘人

小右記

秋八月

六日庚寅使百僧轉讀仁王經於大極殿三

日

日本紀略百僧大極殿據小右記

十一日乙未有人私鬪

露刃入禁中太皇太后宮大進源賴國佐渡

守有孝捕獲之

小右記左經記

二十八日壬

子、皇太弟加元服於紫宸殿

日本紀略、小右記、左經記、皇年

代略

詔曰、皇太弟敦良、周誦養材、漢莊讓德、

龍樓之月、添其明、牛漢之星、揚其耀、是以仲

秋景宿、日月嘉辰、備首服而應三加之禮、修

容儀而從四行之文、宜尋徽章於曩日、以均

慶、賜於普天、其天下為父後者、六位以下、敘

爵一級、寬仁元年、以往調庸未進、咸從免除、

小右記

九月、太宰府言、新羅送還刀伊所掠壹

岐對馬男女二百餘人、

小右經記

是月、課諸國

修皇嘉門及諸門垣

小右記

十二月二十二日

甲辰、以攝政賴通為關白

日本紀略、公卿補任、左經記、小右記

○一代要記為二十一日、百鍊鈔二十三日

四年庚申、夏四月十三日甲午、天皇患疱瘡、

日本紀略

二十一日癸卯、詔大赦天下、免調庸逋

負、復天下今年田租之半、其疾病者、使長吏

躬親周視、特加優恤、使僧讀大般若經、不斷

聲五日

左經記

二十三日甲辰、修仁王會、自春

疱瘡流行、是月殊甚

日本紀略

五月十一日辛酉

天皇疾瘳、課防河役於畿内及近江丹波、六月十六日丙申、藏一條帝御骨於圓融寺、二十一日壬寅、讀大般若經於大極殿三日、以禳疾疫、秋七月、以疾疫停相撲節、左經二十一日辛未、大風、宮殿門廊多倒、日本略八月十一日庚寅、定考、以疱瘡流行撤樂、左經二十二日辛丑、大風雨、日本略九月十日戊午、天皇患瘧疾、小右記十三日辛酉、轉讀大般若經、日本略二十五日癸酉、讀法華經於清涼殿、不斷

聲、小右記

二十八日丙子、讀經二十一寺、左經

冬十月七日甲申、占雉集安福殿、日本略

日本略

安福殿左經

十一月二日己酉、祈晴丹生貴

布禰、日本略

十一日戊午、奉神寶於宇佐、十二

月十八日甲午、以疾疫修仁王會於大極殿、

免輕囚、日本略

官符諸國、每月六齋日禁

殺生、閏月二十五日辛未、又修仁王會三日、

是月太宰府言、南蠻賊掠薩摩人、詔討之、左經

記

治安元年辛酉春正月、天皇始視除目、

中右記永

久二二十八日甲辰、修仁王會、禳疾疫、

日本略紀

二月丙午朔、納藤原嬉子為皇太弟妃、

一代要記

二日丁未、改元、大赦天下、給老人僧尼穀、二

十五日庚午、奉幣二十一社、三月七日壬午、

使公卿諸司寫壽命經、一千僧轉讀之大極

殿、夏四月五日庚戌、高松殿火、二十三日戊

辰、奉幣二十一社、祈雨禳疾疫、二十六日辛

未、轉讀仁王經於石清水以下十六社三日、

日本略紀五月二十五日己亥、左大臣藤原顯光

薨、日本紀略公卿補任、二十七日辛丑、轉讀大般若經

于大極殿、六月十六日庚申、奉幣二十一社、

秋七月甲戌朔、日有食之、十日癸未、修仁王

會于大極殿、以禳疾疫、日本紀略二十五日戊戌、

以右大臣藤原公季為太政大臣、內大臣賴

通為左大臣、關白仍舊、大納言藤原實資為

右大臣、權大納言藤原教通為內大臣、八月

壬申晦、右大臣藤原實資兼皇太弟傅、公卿補任

小右九月四日丙子祈雨丹生貴布禰日本紀略

冬十月十四日丙辰天皇與太皇太后同輿

幸春日社奉添上郡於春日社日本紀略賜

社司位榮華物語十五日丁巳還宮是月觀童舞

於清涼殿十二月十四日甲寅又觀童舞日本

略紀二十三日癸亥宇佐宮災日本紀略是歲

旱大饑一代要記春夏疾疫死亡相繼日本紀略

二年壬戌春二月二日壬寅卜宇佐災後愚昧記

應安四年十九日己未奉幣石清水告宇佐災日本

紀略扶桑略記二十六日丙寅以宇佐災輟朝五日

○百鍊鈔為二十七日丁卯遣使宇佐夏六月

月四日壬寅以不豫讀大般若經法華經於

禁中及東大興福二寺秋七月十一日己卯

奉幣七社日本紀略十四日壬午行幸法成寺觀

前太政大臣道長慶金堂大赦天下日本紀略扶桑

略記常赦所不免者咸皆赦除冬十月二十三

日己未地震日本紀略二十五日辛酉行幸平野

十一月二十八日甲午行幸大原野日本紀略西宮

記帝王編年記

三年癸亥春正月二日丁卯觀太皇太后本日

紀略扶桑略記二月二十五日己未盜火麗

景殿撲滅之紀略日本秋七月四日丙寅地大震

五日丁卯又大震八月二十一日壬子祈雨

丹生貴布禰小右記

萬壽元年甲子春三月十七日甲辰地震日本

紀略扶桑略記十八日乙巳又震扶桑略記夏四月十一

日戊辰祈雨石清水賀茂貴布禰春日小右記

二十七日甲申又祈丹生貴布禰五月丁亥

朔日有食之紀略日本秋七月十三日戊戌改元

詔大赦天下日本紀略賑給高年日本紀略九月

十一日丙申有白雲如布二道自西南亘東

北小右記十九日甲辰行幸關白賴通賀陽院

第觀競馬日本紀略小右令舍人及東宮帶

刀等騎射榮華物語冬十一月二十三日丁未行

幸松尾社日本紀略○西宮勢多橋火日本紀略

小右十二月二日丙辰雷日本紀略二十六日庚

辰、行幸北野社、日本紀略、西宮記、二十一日

二年乙丑、春二月十九日壬申、奉幣大神宮、

日本紀略、三月二十五日丁未、三條皇后藤原氏

崩、日本紀略、大鏡裏書、夏四月十四日乙丑、葬皇后藤

原氏、日本紀略、秋七月、諸國旱、和泉淡路殊甚、日本紀略、

記九日己丑、祈雨丹生貴布禰、日本紀略、

十六日丙申、以一條院妃薨、停相撲節、日本紀略、

日本紀略、二十一日辛丑、使七大寺僧讀經東

大寺、日本紀略、又讀經室生龍穴、日本紀略、十五日壬

寅、大炊寮廳火、日本紀略、八月十一日庚申、天皇

患赤斑瘡、十五日甲子、疾瘳、日本紀略、九月二

日辛巳、有白雲如布、亘東西山、日本紀略、二十四

日癸卯、改葬皇后藤原氏、日本紀略、自夏赤

斑瘡流行、至是月不止、日本紀略、扶桑略記、

日本紀略、瘡、日本紀略、今從冬十月、天皇受仁王經於僧院源、日本紀略、

記十二月五日癸丑、地震、日本紀略、夏四月二十

三年丙寅、春正月二日庚辰、觀太皇太后、日本紀略、

記十九日丁酉、上太皇太后號曰上東門院、日本紀略、

日本紀略左
經記百鍊鈔
二十八日丙午
御廚子所有

光左經
三月十五日
壬寅修百座
仁王會

日本紀略
二十六日
癸卯省試
夏四月二十

八日甲戌
朝餉御座
及臺盤所有
光是月京

師井生蟲
如蛭飲者
患腫五月
弗豫七日壬

午使僧修
不動法祭
主禱于神
祇官九日甲

申卜宇佐
宮柞樹暴
枯復榮鴨
集南樓于軒

廊十三日
戊子官符
諸國禳宇
佐怪異閏月

令僧讀經
修法又修
七瀨禊禱
弗豫左經秋

八月十七日
庚寅大風
左衛門陣
樹倒官舍

多壞二十八日
辛丑卜賀
茂社檜樹
一時枯

日本紀略
冬十月癸酉
朔日有食
之日本紀略
二月

十二日甲午
修仁王會
於大極殿
禳今年日

月三蝕日本
紀略

四年丁卯
春正月三日
乙巳觀上
東門院京

師火延燒
千餘家日本
紀略扶桑
略二月二

十七日戊戌
右近衛府
圖書寮火
累代寶器

罹災日本
紀略是月
盜數劫路
人小右又入

禁中、奪女官衣物、三月二日癸卯、地大震、日本

略紀二十三日甲子、納禎子內親王為皇太弟

妃、夏四月十二日壬午、敕禁賀茂禊祭車服

華侈、日本紀略五月十四日癸丑、大風、二十

四日癸亥、京師風雨洪水、屋舍多壞、震豐樂

院觀德堂、日本紀略觀德六月十日己卯、東

大寺塔上有小蟲怪、占之、日本紀略占之按

西宮記云、東大寺塔上怪云云、五月五日宣

旨云、簡寺中僧五十口、始自今月十一日、七

月箇日、轉讀仁王經、而秋七月十日戊申、占宇

佐宮怪、小右九月十三日庚戌、京師大風、舍

屋多倒、日本紀略十四日辛亥、皇太后藤原氏崩、

日本紀略十六日癸丑、葬枇杷皇太后、日本紀略

扶桑略記十一月二日戊戌、卜宇佐宮怪異於

軒廊、日本紀略軒十三日己酉、以前太政大

臣道長疾、大赦天下、常赦所不免者咸赦除、

免調庸、加賑恤、十八日甲寅、停親試、日本紀略二

十六日壬戌、行幸法成寺、視道長疾、日本紀略扶桑

略記百二十九日乙丑、盜入勸學院、是月敕

造宇佐宮小右記十二月四日庚午前太政大

臣道長薨小右記公卿補任扶桑略記

長元元年戊辰春正月以道長薨停諸節會

敘位二月十八日癸未虹見清涼殿日本紀略扶桑

略記三月丙辰朔日有食之日本紀略左經是

月有氣四塞如雲霞訛言海潮溢日本紀略

夏四月祈雨神泉苑祈雨記五月三日丁酉轉

讀大般若經於大極殿禳旱疫日本紀略二

十三日丁巳糾察非武官帶弓箭往來街路

者左經記六月七日庚午奉幣二十一社祈豐

年禳疾疫鎮騷擾日本紀略扶桑略二

十一日甲申先是前上總介平忠常反燒殺

安房守惟忠姓關詔檢非違使右衛門少尉平

直方少志中原成道等討之日本紀略左經

編年殘編○編年殘編官符東海東山二道

同討日本紀略秋七月三日丙申祈雨丹生貴布

禰日本紀略九日壬寅讀仁王經於七

大寺十日癸卯讀經龍穴十三日丙午讀仁

王經於東大寺侍從所鳴左經十八日辛亥

使百僧讀仁王經於大極殿日本紀略左經

百僧紀略略記共二十五日戊午改元大赦

天下日本紀略略八月四日丙寅震左大史小

槻貞行家一婢震死小右記左經按本書

補之五日丁卯平直方中原成道等發京師日本

紀略左經記二十八日庚寅以霖雨大風使

百僧讀仁王經於大極殿日本紀略略是月備

前大風寺社官舍悉壞小右九月二日癸巳

京師諸國大風雨洪水日本紀略左經屋舍

多倒左經冬十月十三日甲戌金峯山僧百

餘詣陽明門訴大和守藤原保昌苛政二十

一日壬午京師火日本紀略左經延燒五百

餘家日本紀略略二十五日丙戌策試小右十

一月四日甲午雷是月天暖左經九日己亥

京師火日本紀略略十四日甲辰禁五

節奢靡小右十五日乙巳省試左經二十九

日己未夜盜劫女子於殿上奪衣小右記瀧

口射殺之、日本紀略、小右記、左經記、扶桑略記、

二年己巳、春二月二日辛酉、彗星見、一代要記、中右

記長承元年、山、五日甲子、官符追討使平直

方、及東海東山北陸三道、討平忠常、日本紀略、扶桑

略記、參取、小右記、二十三日壬午、盜入禁中曹司、取

女子衣物、小右記、閏月二十九日戊午、奉幣二

十二社、三月十八日丁丑、使百僧讀仁王經

於大極殿、夏五月二日庚申、奉幣伊勢已下

十六社、十三日辛未、修仁王八講於清涼殿、

日本紀略、六月七日甲午、以小一條院子敦

元敦昌、並為親王、十三日庚子、遣檢非違使

搜索平忠常家僮在京師者、二十六日癸丑、

卜石清水宮有尸骸於軒廊、秋七月二日己

未、奉幣石清水、日本紀略、八日乙丑、出雲飯石郡

須佐鄉雪、損田畝、殺草木、小右記、朝野、二十

日丁丑、前太宰大貳藤原惟憲獻白鹿、放之

神泉苑、小右記、○日本紀略、編年殘編、係三十

日、二十一日戊寅、修仁王會、禳三合厄、日本紀略、

八月丁亥朔、日有食之、日本紀略、小右記、二十七日

癸丑、奉幣二十一社、九月十六日辛未、以關

白賴通疾、大赦天下、常赦所不免者皆赦除、

是月京師人多病腫、謂之福來病、踰月不止、

日本紀略、冬十月十七日壬寅、太政大臣公季薨、

日本紀略、扶桑略記、公卿補任、十一月二十八日壬午、謁石

清水宮、日本紀略、帝王編年記、二十九日癸未、還宮、十

二月八日壬辰、檢非違使中原成道坐在軍

不奏狀奪官、日本紀略、

三年庚午、春正月十七日辛未、盜殺女子於

豐樂院壇上、三月八日辛酉、上東門院所居

三條第火、二十七日庚辰、安房守藤原光業

畏平忠常、棄印鑑還京師、壬午晦、以平正輔

為安房守、夏四月二十三日乙巳、禁諸國吏

營宅過制、其及方一町者、減為四分之一、又

禁六位已下板築作垣、檜皮葺屋、二十七日

己酉、讀大般若經於大極殿、禳疫、五月八日

庚申、奉幣二十二社、祈甘雨、鎮賊亂、十三日

乙丑、祈雨丹生貴布禰、廿九日辛未、會千僧於大極殿、讀壽命經、禳疫、二十四日丙子、命諸國畫丈六觀音像、讀觀音經、日本紀略是月京畿飢、給貧民米鹽、西宮記六月八日庚寅、卜宇佐宮神馬、焚死於軒廊、二十日壬寅、修仁王會於大極殿、禳疾疫、秋七月六日丁巳、彈正尹清仁親王薨、日本紀略八月十六日丁酉、祈晴丹生貴布禰、日本紀略作祈雨、朝野羣載載宣命作止雨、今從之、九月二日壬子、敕甲斐守源賴信、率坂東諸國兵、

討平忠常、召還追討使平直方、日本紀略二十三日癸酉、遣權中納言藤原經通於伊勢、奉神寶幣帛於大神宮、禳天變怪異、日本紀略伊勢公卿敕使例、冬十二月二十九日丁未、伊賀守源光清坐殺伊勢神民、流于伊豆、日本紀略百鍊鈔、略、四年辛未、春正月三日辛亥、觀上東門院于京極院、皇太弟從焉、日本紀略二月十日丁亥、多武峯鳴動、二十六日癸卯、先是耽羅人漂來、至是給糧放還、小右記三月十四日辛酉、

式部卿敦平親王坐事停釐務是日命法官

論安房守平正輔前右衛門尉平致經私鬪

罪日本紀略小夏四月二十八日乙巳甲斐

守源賴信言賊平忠常降日本紀略丙午晦

東三條院火日本紀略六月十六日壬辰賴

信斬忠常傳首京師扶桑略○左經記百

五月略秋七月二十二日丁卯祈雨丹生貴

布禰日本紀略二十五日庚午震豐樂院

西南堂小右八月四日己卯卜羣雀巢宇佐

宮殿上於軒廊左經記○日本紀略 七日壬

午奉幣帛及馬十匹於石清水宮日本紀略

讀經石清水賀茂等七社賽宿禱小右八日

癸未先是齋宮頭藤原相通妻作大神宮寶

殿於私室誑惑庶民至是流相通於佐渡妻

於隱岐十三日戊子祈晴丹生貴布禰奉幣

帛馬十匹於賀茂社賽宿禱日本紀略十

四日己丑奉幣帛馬十匹於松尾大原野日本

據略十七日壬辰奉馬平野祇園北野

各十匹左小經記、二十三日戊戌卜霖軒廊、右小

記改流藤原相通於伊豆、二十五日庚子遣

參議源經賴於大神宮奉幣帛神寶日本紀略小右

記進禰宜爵一級以謝相通事兼祈晴小右

勢公卿、二十八日癸卯奉馬稻荷春日各十

匹又祈晴丹生貴布禰是月天皇每夜密御

內侍所拜禱小右九月五日庚戌復式部卿

敦平親王釐務日本紀略小右、六日辛亥

以天變霖雨免輕囚左經二十五日庚午上

東門院詣石清水住吉天王寺關白賴通從

焉日本紀略小二十六日辛未先是卜霖有

葬人祇園境内之崇是日奉幣祇園謝之小右

略記○按本書及左經記卜霖不日日本紀是

秋修東大寺敕封庫左小經記冬十月乙亥朔

雷左華物經記、榮十七日辛卯出雲言杵築社無

故而倒日本紀略左二十四日戊戌官廚倉

火左經閏月三日丁未卜杵築社倒于軒廊

十五日己未奉幣杵築社日本紀略、癸酉晦

雷左經 十六日申戌朔日南至御紫宸殿公

卿表賀日本紀略 四日丁丑雷左經 十九日壬辰

詔曰聖皇觀象玉燭和四時之光哲后宣風

瑞篆遺千年之美故詢鳳曆之遐算上元無

差叶龜策之宏圖大中有用朕以眇身謬承

丕業亭育未洽于黔首居諸動變于蒼穹迺

者公卿奏言今日朔旦推得冬至終而復始

理任自然朕德既涼豈敢鍾之若非宗祧之

靈睠定是輔佐之勲功思與天下共斯休祥

可赦天下但八虐故殺謀殺強竊二盜私鑄

錢常赦所不免及欠負官物之類不在赦限

授爵賜物一準舊典庶施愷澤於四海答嘉

貺於九垓醍醐報恩院 癸卯晦修齋會於大

極殿左經 十二月三日丙午上東門院所居

京極院火日本紀略 十六日己未卜

定馨子內親王為齋院日本紀略

五年壬申春正月三日乙亥觀上東門院於

賀陽院二月二十三日甲子有鹿入左近衛

府三月二日癸酉、天皇從上東門院、幸關白
 賴通白河第觀花、五日丙子、以地震雷、詔大
 赦天下、常赦所不免、咸赦除免、調庸、給老人
 僧尼穀、夏四月二十八日戊辰、祈雨、日本紀略五
 月辛未朔、修請雨經法於神泉苑、東寺長者補任、祈雨
日記、十日庚辰、占旱、小右記、二十日庚寅、使三百
 僧讀經大極殿、祈雨禳疫、二十四日甲午、又
 使三百僧修仁王講、六月二日辛丑、奉幣大
 神宮、二十七日丙寅、使千僧讀觀音經於大

極殿、自二月不雨、至是月、宇治川涸、秋七月、
 停相撲節、十日己卯、卜石清水怪於軒廊、十
 四日癸未、敦元親王薨、二十日己丑、卜大風
 宇佐宮倒於軒廊、日本紀略二十五日甲午、○本
書作
二十六日、今據千支訂之、星月晝見、平戶記延應二年九月二十
 七日乙未、出雲守橘俊孝坐造為杵築社神
 託、授人官位、流于佐渡、百鍊鈔○按本書係
十五日、今從日本紀略、冬十二月八日乙巳、九條
 御殿火、日本紀略、扶桑略、日本紀略、扶桑十六日癸丑、富士山

焚日本紀略

六年癸酉春正月二十六日癸巳盜入東宮

及御息所取衣物日本紀略二月三日己亥彗星

見東方一代要記山槐十日丙午以盜入禁

中奪左衛門官人闕宿直者職三月八日癸

酉修仁王講於清涼殿三日夏四月二十五

日庚申祈雨丹生貴布禰日本紀略五月十四日

戊寅修請雨經法于神泉苑日本紀略祈雨者

補任十八日壬午卜旱日本紀略十九日癸未使五

百僧修仁王會於大極殿日本紀略修五龍

祭於神泉苑秋八月二十七日庚申奉幣丹

生貴布禰九月十五日丁丑又奉幣日本紀略冬

十二月二十一日癸丑藏人藤原經衡坐凌

辱左近衛少將藤原資房除籍日本紀略

七年甲戌春正月五日丙寅觀上東門院日本紀略

紀略編夏五月九日戊辰近江獻白鳥日本紀略

扶桑略記秋七月十五日壬寅卜東大寺有鷺怪

自正月至是月數雨水田疇多損左經八月

九日丙寅大風扶日本紀略記百鍊鈔殿舍門廊

寺社民屋多倒人畜壓死洪水淀河溢濱河

民舍被害左經記十三日庚午彗星見東方日本

紀略左十九日丙子命修理職木工察及諸

國司修繕殿舍門廊二十八日乙酉使祭主

大中臣輔親齋宸筆宣命奉神寶幣帛於大

神宮左經記按日本紀略或係二十七九月

丙辰晦輔親獻大神宮前所得碧珠日本紀略左

記百鍊鈔冬十月十一日丁卯卜安碧珠處于軒

廊置之內殿左經記十七日癸酉慶圓教寺佛

堂左經記扶二十一日丁丑刑部少輔藤原

經平坐與侍從良貞姓關私闕除籍二十五日

辛巳卜賀茂別雷社有狼噬殺鹿于軒廊左經

記十一月五日辛卯奉幣大神宮謝得瑞授

大中臣輔親從三位日本紀略左經賜初見

瑞者位十三日己亥卜虹見外記廳十九日

乙巳有采女稱伊勢大神憑已日不出三日

宮中當火因令諸陣警備二十日丙午省試

二十四日庚戌雷、十二月二日戊午、課試醫
得業生、八日甲子、課試明經得業生、左經記

八年乙亥、春正月丙戌朔、以雨停小朝拜、左經記
二日丁亥、觀上東門院、日本紀略、左經記、扶桑略記三

月、東大寺佛像水出、夏四月七日庚申、雨雹、左經記
十四日丁卯、中務卿昭登親王薨、日本紀略

五月二十八日辛亥、祈雨丹生貴布禰、六月
十四日丙寅、集七大寺僧於東大寺、讀經三

日、又祈龍穴、免輕繫、二十一日癸酉、讀經大

極殿、左經記秋八月九日庚申、奉幣二十一社、日本紀略
紀略九月十一日辛卯、有流星、日本紀略、扶桑略記十

四日甲午、澍雨、日本紀略二十日庚子、以星變大
赦天下、日本紀略、扶桑略記常赦所不免者、咸赦除、賜

老人僧尼穀、賑給貧民、二十三日癸卯、奉幣
二十一社、二十六日丙午、修仁王會、冬十月

辛亥朔、日有食之、十一月十一日辛卯、卜宇
佐宮怪于軒廊、二十八日戊申、以吉田社神

殿有死人、改造之、日本紀略十二月二十五日乙

亥遣右少史高橋文俊推問但馬守源則理

射殺石清水神民日本紀略

九年丙子春正月三日壬午藏人頭左近衛

中將藤原俊家坐使人毆藏人頭藤原經輔

除籍日本紀略扶桑略記職事補任三月六

日乙酉夜天皇拜内侍所日本紀略是月弗豫日本

紀略左經記扶桑略記○按編夏四月六日

甲寅復藤原俊家職日本紀略十三日辛酉

奉幣伊勢以下十二社禱疾十六日甲子分

遣侍臣奉馬十社日本紀略免輕囚日本紀略十

七日乙丑天皇薙髮日本紀略大鏡裏書歷

是日崩于清凉殿年二十九日本紀略左經

鍊鈔臨崩將讓位於皇太弟使關白賴通詣昭

陽舍傳旨歸則已崩左經遺詔秘不發喪奉

劔璽於皇太弟日本紀略數日移梓宮於上

東門第又遺詔停素服舉哀喪司國忌山陵

日本紀略火葬於淨土寺西原日本紀略安聖容

於菩提樹院今鏡帝王編年記○按扶藏御

骨於淨土寺日本紀略長久元年移於菩提

樹院百鍊稱後一條院帝頗有文藻今受史

記文選於大江舉周小右記長其在位重勞

民及葬役夫相語曰二十年間令我息肩今

而可不效力哉帝王編年記

大日本史卷之四十終

大日本史卷之四十一

本紀第四十一

權中納言從三位源光圀山修

男權中納言從三位綱條校

玄孫權中納言從三位治保重校

後朱雀天皇

後朱雀天皇諱敦良後一條帝同母弟也扶

略記百鍊寬弘六年十一月二十五日丙子

生于外祖左大臣藤原道長上東門第日本略



百鍊鈔、帝、七年正月為親王、日本紀略、今鏡、王編年記、

編年八年十一月著袴、皇略、年代長和四年十

二月始讀書、日本紀略、皇寬保元年、

為皇太弟、三年八月冠、日本紀略、長元九年

四月十七日乙丑、後一條帝崩、羣臣就昭陽

舍奉劔璽於皇太弟、皇太弟踐阼、左經記、百鍊鈔、毘沙

門堂所藏記、關白左大臣賴通、右大臣兼右近衛

大將藤原實資、內大臣兼左近衛大將藤原

教通並如故、公卿補任、五月十九日丙申、葬後一

條天皇、左經記、一代要記、秋七月十日丙戌、天皇即

位於大極殿、時年二十八、扶桑略記、一代要記、按本書、並以丙

戌為十四日、今推干支、從、九月六日辛巳、後

一條皇后藤原氏崩、大鏡裏書、十九日甲午、

葬皇后、大鏡裏書、冬十月二十九日癸酉、御禊、十

一月十七日辛卯、大嘗、扶桑略記、一代要二

十八日壬寅、卜定皇女良子為齋宮、娟子為

齋院、扶桑略記、十二月二十二日丙寅、以皇

子親仁尊仁並為親王、帝王編年記、皇年是

本紀

歲自夏至秋、疱瘡流行、

榮華物語

長曆元年丁丑、春正月二十九日壬寅、以藤

原嬭子為女御、

編年殘編、

二月十三日丙辰、

立禎子內親王為中宮、

扶桑略記、公卿補任、

編、日、三月甲戌朔、改中宮為皇后、

公卿補任、

立女御嬭子為中宮、

扶桑略記、公卿補任、

夏四月、

十三日乙卯、攝津能勢郡始貢銅、

百鍊鈔、

係、三月、不日、帝王編、

二十一日癸亥、改元、

編略、年記、百鍊鈔、帝王補任、

閏月八日庚辰、雨雹、

扶桑略記、

百鍊鈔、

五月十五日丙辰、以安樂寺訴遣左衛

門權佐藤原隆佐於太宰府、推問權帥藤原

實成、二十日辛酉、流但馬守源則理於土左、

刑部大輔相奉

姓、

於伊豆、

扶桑略記、

實秋八

月三日壬申、奉攝津貢銅於七社、

扶桑略記、

十一日庚辰、行幸賀茂社、

玉、

十七日丙

戌、立皇子親仁為皇太子、

扶桑略記、百鍊鈔、

大臣藤原教通為傅、

公卿補任、

九月三日壬寅、有

流星亂墜、

百鍊鈔、

十三日壬子、遣參議藤原良

賴於伊勢奉幣大神宮又分使奉幣二十一

社伊勢公卿冬十月二十三日辛卯觀上東

門院於賀陽院今鏡玉藥嘉禎元年十一月奉

封百戶於大神宮扶桑略記十二月八日乙亥謁

石清水宮帝王編年記係三月九日丙子

召還源則理等扶桑略記十三日庚辰納章子內

親王為皇太子妃扶桑略記女院小傳

二年戊寅春正月二日己亥觀上東門院今鏡

夏五月中納言兼太宰權帥藤原實成除名

○公卿補任代要記尊卑分脈六月十四日

己卯修請雨經法七月日祈雨冬十二月二十

日壬午行幸春日社代要記帝百鍊

三年己卯春立拜京己卯延曆寺僧徒

聞朝廷將以園城寺僧明尊為座主百鍊詣

關白賴通第訴者三千餘人守門不去使

兵士驅之捕首惡下獄扶桑略記三月十六

日丁未延曆寺僧徒來賀陽院索捕下獄扶

略記夏五月廿九日己酉遣參議藤原經任於

伊勢奉宸筆宣命金銀獅豕狛犬於大神宮

告祭主太中臣佐國有罪伊勢公卿敕使例

皇代六月二十七日酉金銀獅豕狛犬流前祭主太中臣

佐國于伊豆百鍊鈔古今著聞集○二十七

日丙戌禁內火天皇避之太政官朝所秋七

月十三日壬寅徙御京極院扶桑略記十九

日戊申召還太中臣佐國扶桑略記百鍊鈔二

十三日壬子弗豫扶桑略記○古今著

六日乙卯大赦天下扶桑略記八月二十八日丁

亥中宮藤原氏崩扶桑略記百鍊鈔水左記

十二月十三日己巳以藤原生子為女御編

殘編

長久元年庚辰春正月丙辰朔日有食之扶桑

略記百鍊鈔二十七日壬午觀上東門院於東

北院扶桑略記夏四月三日丁亥卜賀茂社靈木

仆於軒廊五日己丑奉幣二十一社禳旱災

十日甲午盜殺前肥後守藤原定任敕閉關

搜索下符諸國購之二十七日辛亥卜伊勢

怪異于軒廊、五月二日丙辰、京師盜賊帶弓
 箭往來、連夜行火、又有羣僧、殺掠行人、設賞
 捕之、二十二日丙子、盜入宮中竊御衣、春記是
 月京師多暴死者、久之不止、扶桑略記秋七月二
 十六日己卯、京師大風、八省院含嘉堂倒、是
 日豐受大神宮正殿寶殿悉倒、百鍊鈔○古
 日七天皇有幸伊勢之志而未果、會有此災、憂
 懼殊甚、親書宣命、每夜拜且讀之、百鍊鈔引
 資房記九月八日庚申、地大震、扶桑略記九日辛酉、京極

院火、天皇避之法成寺、百鍊鈔引資房記○
 遷御故正三位藤原惟憲家、扶桑略記神鏡罹災、
 收其燼餘、百鍊鈔引資房記、中右記寬治十
 二日甲子、召諸卿議神鏡事、百鍊鈔二十七日
 己卯、遣參議藤原良賴于伊勢、奉幣大神宮、
 又奉幣石清水賀茂松尾平野、伊勢公卿冬
 十月二十二日甲辰、徙御內大臣藤原教通
 二條第、春記扶桑略記○宇佐宮神人犯蹕
 上訴、是日初營新宮、辛亥晦、地大震、春記○
扶桑略

一記係十一月十日辛酉改元扶桑略記百鍊鈔帝王編

年記十八日己巳左兵衛佐定長坐凌辱藏人

典藥助信房削籍定長信房並姓闕十二月十三日

甲午慶園城寺圓滿院十六日丁酉卜齋宮

寮倉火於軒廊春記二十五日丙午行幸平野

扶桑略記及還宮和泉民闢訴于路二十八日己

酉左近衛陣火瀧口清原定清撲滅之二十

九日庚戌敕外記詰問荷前諸使多稱事故

不從事者春記是歲復藤原實成位公卿補任尊卑分脈

一代要記○扶桑略記係長曆三年七月二十六日

二年辛巳春二月二十日己亥致平親王薨

二十一日庚子行幸北野扶桑略記三月四日癸

丑花宴親試擬文章生扶桑略記百鍊鈔今鏡夏五月

十一日己未廷議使諸宗僧論園城寺請建

戒壇扶桑略記百鍊鈔秋七月二十日丁卯地震八

月三日庚辰行幸大原野二十七日甲辰行

幸松尾九月十三日己未大安寺火扶桑略記冬

十月十四日庚寅祇園社火一代要記十一月九

大日記

日甲寅、以天變太赦天下、十二月十九日甲

午宮成徙御、是日、攝津始獻紺青、扶桑略記

以獻紺青為十一月事

三年壬午、春正月二十四日己巳、圖書寮火、

百鍊夏五月十四日丙辰、卜東大寺大佛像

無故而濕、六月癸酉朔、日有食之、雨不見、秋

七月以上東門院違豫、停相撲節、扶桑略記八月

二十日辛卯、宴清涼殿、百鍊九月二十一日

辛酉、行幸關白賴通賀陽院第觀競馬、扶桑略記

百鍊閏月九日己卯、宴清涼殿、百鍊冬十月

九日己酉、以藤原延子為女御、扶桑略記十二月

八日丁未、禁中火、天皇避之、太政官朝所、扶桑

略記、百鍊

四年癸未、春正月、行諸節會于太政官廳、百鍊

鈔三月二十三日庚寅、徙御一條院、扶桑略記

鈔夏五月丁卯朔、日有食之、扶桑略記天下大旱、

八日甲戌、修請雨經法于神泉苑七日、十三

日己卯、雨、扶桑略記七日據祈亦月八日癸

卯始奉官幣於日吉社年中行事九月九日癸酉

試文章生學生於弓場殿扶桑略記百鍊鈔

十一月二日丙寅右大臣藤原實資罷右近

衛大將二十七日辛卯權大納言藤原通房

兼右近衛大將云卿補任十月甲午朔一

條院火天皇避之關白賴通賀陽院第二

一日甲寅徙御東三條院扶桑略記是歲廿

露降皇年代略記牛產兩頭扶桑略記十二月

寬德元年甲申春三月四日丙寅卜賀茂社

怪於軒廊中右記天夏四月二十七日戊午

權大納言兼右近衛大將藤原通房薨扶桑略記

一代要記帝王編年記尊卑分脈公卿補任為二十四日五月八日己

巳以關白賴通疾大赦天下二十五日丙戌

弗豫六月三日癸巳以京師訛言坊巷居人

閉門不出扶桑略記四日甲午讀大般若經於大

極殿吉記自正月至是月天下疾疫死者

盈路秋八月七日丙申宋商張守隆等至但

馬遣使存問之百鍊鈔係六日二十七日

今鏡以為高麗人

丙辰奉幣二十二社祈旱疫冬十月九日丁酉以上東門院違豫大赦天下十六日甲辰視上東門院疾二十七日乙卯供養一萬僧禱上東門院疾扶桑略記十一月二十四日壬午改元百鍊鈔皇代略紀一代要記公卿補任○扶桑略記係十二月二十日丁未弗豫扶桑略記二年乙酉春正月五日壬戌停敘位十日丁卯大赦天下扶桑略記先是天皇視除目見大人於四季屏風上驚悸得疾古今著聞集十六日癸

酉大漸讓位於皇太子扶桑略記百鍊鈔榮華

事物談古上尊號曰太上天皇皇代略紀十

八日乙亥薙髮百鍊鈔皇代略記法名精進行皇代略

記崩于東三條院年三十七扶桑略記火葬

于香隆寺藏御骨于圓教寺扶桑略記百鍊鈔皇代略記稱

後朱雀院天皇頗睿明然關白賴通專權以

故垂拱仰成無所施為世以為憾焉神皇正統記

大日本史卷之四十一終

